

伐採木保管槽の温度傾向

平成25年10月31日
東京電力株式会社



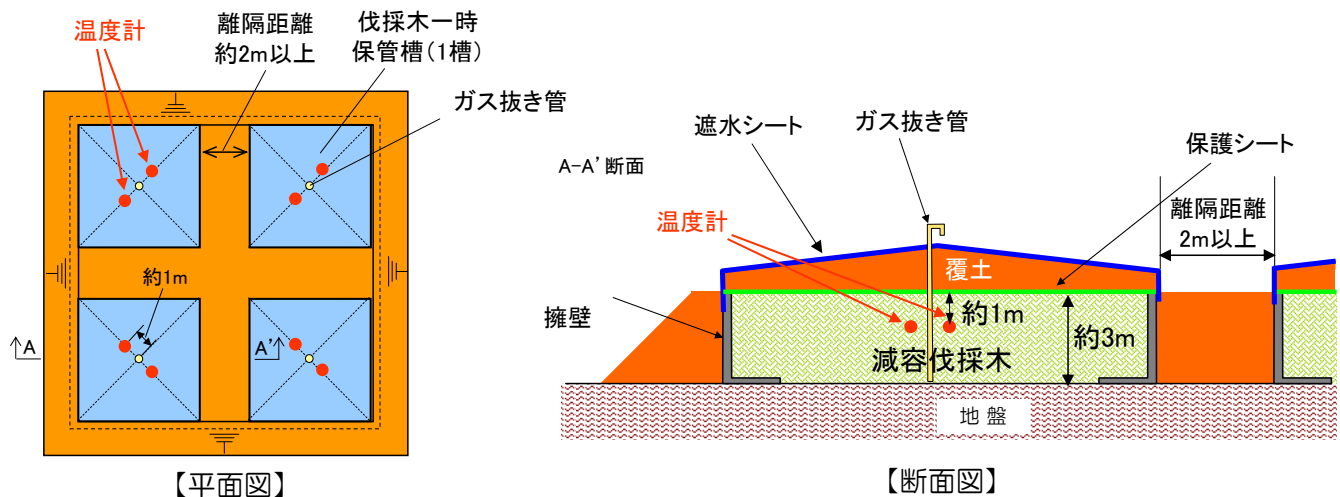
伐採木保管槽の夏期対策

伐採木は、火災リスクが高まる夏期（6月～9月）においては、昨年度同様、以下の運用とする

監視強化のため週3回、以下の項目を確認する。

○各覆土保管槽の中央部の表層より深さ約1 mにおける**温度測定**

○覆土の大幅な沈下や煙の発生等の異常が無いことを**巡視により確認**



伐採木一時保管槽 温度計位置概略図

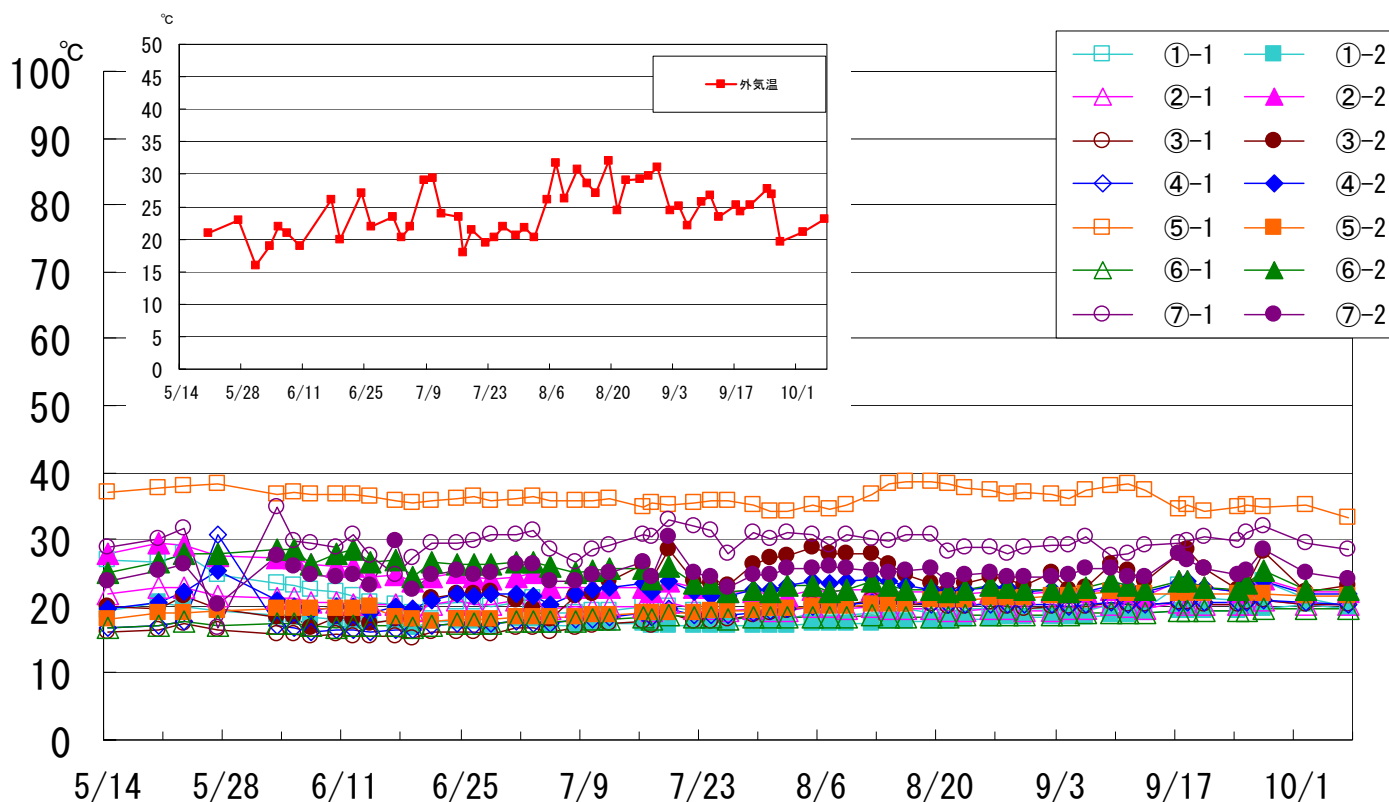
伐採木保管槽の温度上昇時の対応

伐採木一時保管槽は、生物反応による温度上昇を抑えるために収納高さを約3mに制限すると共に、覆土・シートの敷設により燃焼の三大要素である「酸素」の供給を抑制する設計とし火災の予防を図っている。

ただし、万が一にも高い温度上昇が確認された場合においては、消防署殿の指導の元、以下の対応を実施することとしている。

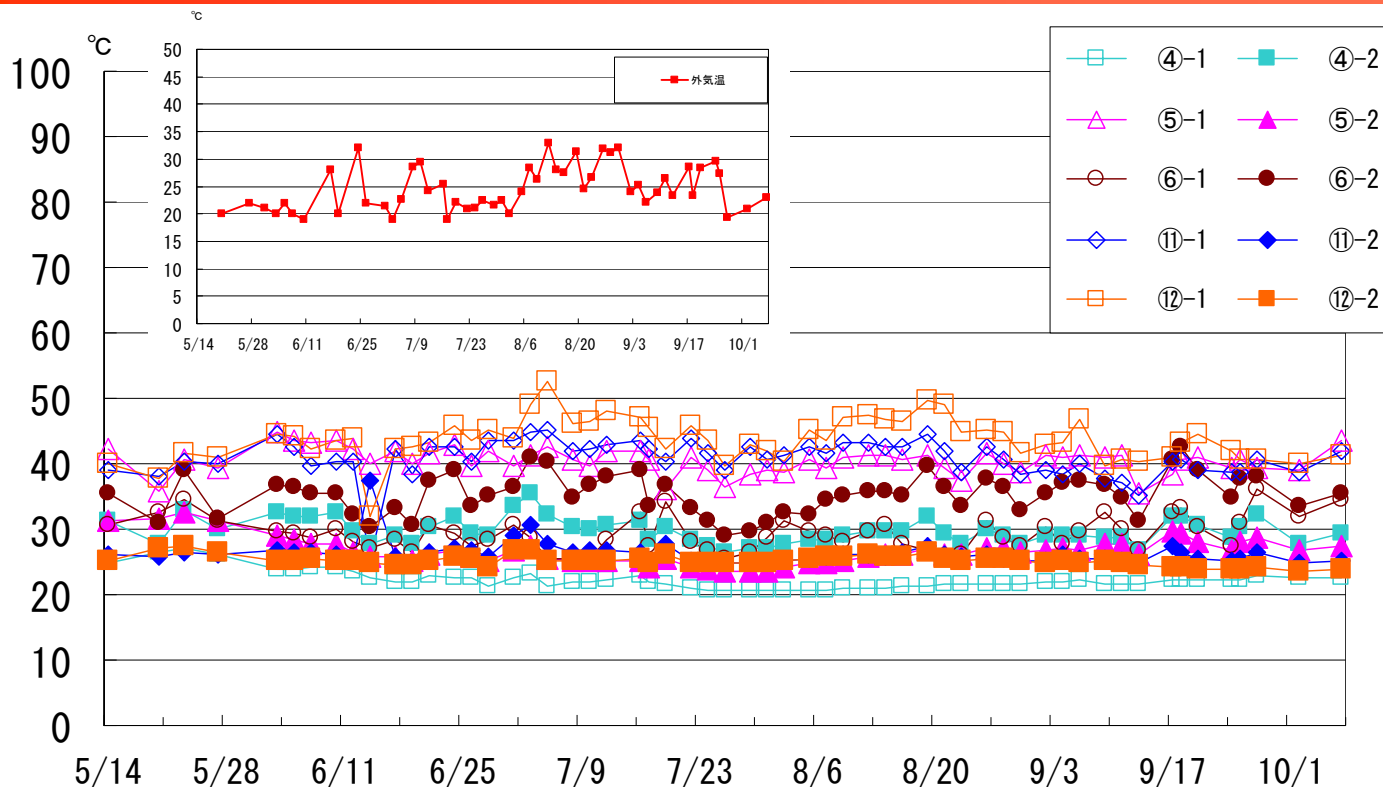
対応目安温度	対応方針
監視温度が70℃以上	当該覆土保管槽について、中央部を除く、 <u>4カ所のガス抜き管の位置（表層より約1mの深さ）についても温度計を追加設置し、温度監視を強化</u> する。
監視温度が80℃以上	当該覆土保管槽について、 <u>ガス抜き管より、窒素ガスを注入し、保管槽の不活性化を図ると共に、火災の兆候の有無（白煙発生等）の監視を強化</u> する。
監視温度が100℃以上	各消防署へ速やかに情報提供し、指示を仰ぐ。

エリアG北



試験槽で見られた約60℃より十分低い温度で推移している

エリアG南



試験槽で見られた約60℃より低い温度で推移している

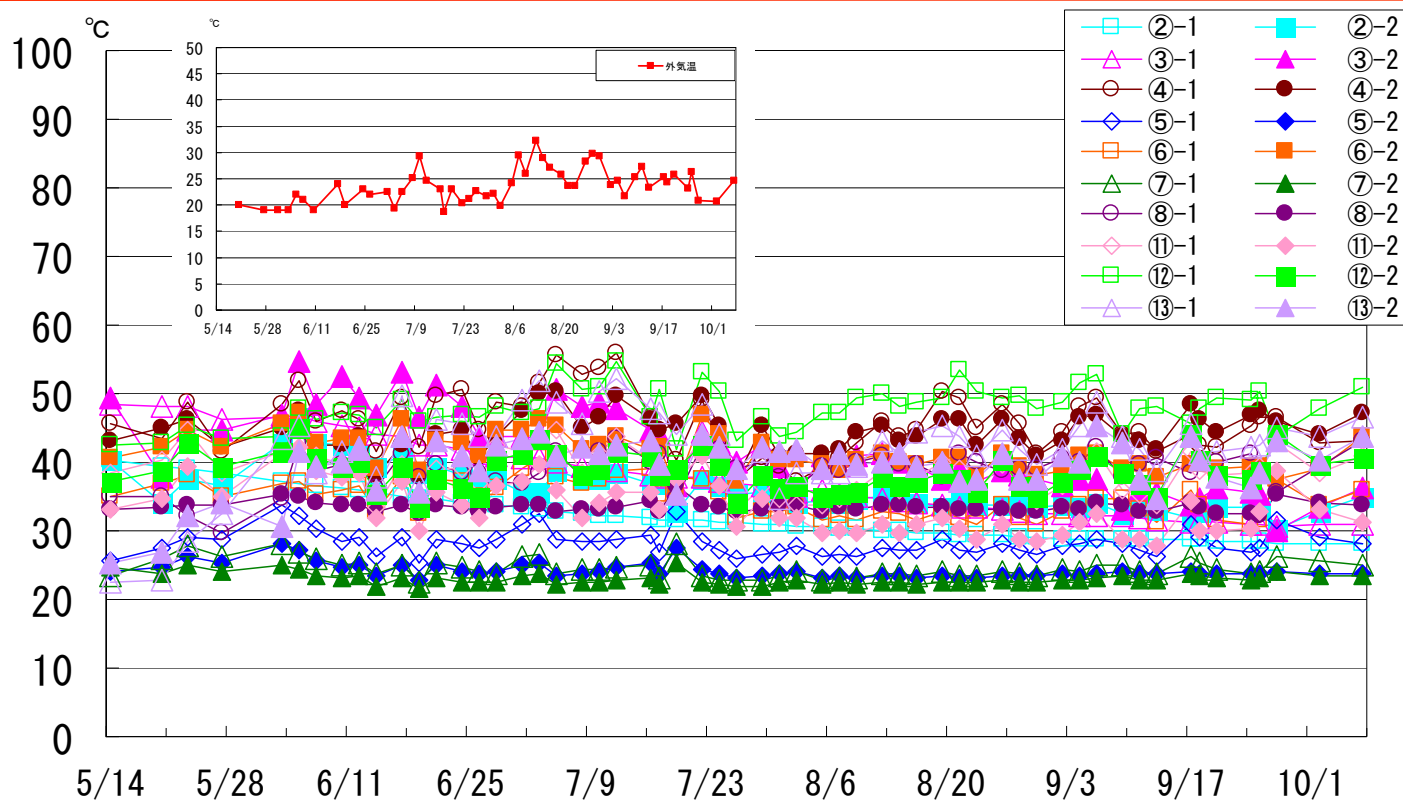


東京電力

無断複製・転載禁止 東京電力株式会社

4

エリアT



試験槽で見られた約60℃より低い温度で推移している



東京電力

無断複製・転載禁止 東京電力株式会社

5

【参考】保管槽の配置 エリアG



【参考】保管槽の配置 エリアT

